



あきらめない心と広い視野、
世界に旅立つ実行力。

今や世界中に販売拠点を有するタカショーは、海南の地場産業である棕櫚(しゅろ)製品を販売する小さな個人商店だった。もともと棕櫚商品はエコとして優れた造園資材。しかし父と二人で行商するだけでは大した量も売れず利益も少ない。そこで社長は販路を拡大するために仲間を集めたが、販路開拓は容易でない。その時社長の目に留まったのがホームセンターだった。何度も売場に通い自分たちで販促し、「人工竹垣」を開発した。今ではタカショーの主力商品としてそのシェアは日本国内の60%にも達する。また2012年4月、ヨーロッパスタイルの売り場づくりや提案方法を取り入れた「ガーデナーズジャパン」を開設し、ガーデニングを通じて豊かで安らぎのある生活を提案しようと考えている。今後の目標は更なる世界マーケットの拡大だ。



海南の地場産業として珍重される棕櫚は空海が中国から持ち帰ったという伝説も残る。タカショーの前身である「高岡正一商店」の主力商品だった。

株式会社タカショー
住所/ 海南市南赤坂20-1 電話/ 073-482-4128



限りなき前進、
いつまでも挑戦し続ける心。

和歌山市に本社を構える島精機製作所は、CG(コンピューターグラフィックス)の草分け的存在であり、世界的なニット編機のメーカーでもある。「SDS-ONE APEX 3」は画面上で糸からデザインし、生地や風合いや柔らかさまでも実物と見分けがつかないほどリアルに再現する3DCGシステム。それと連携して立体的に製品化するのが「MACH 2 X」で、驚くべきことに立体的なニットウェアが30分程度で編み出される。このシステムにより、製品を作るコストも時間も材料も無駄にすることがなく、縫い目がなく肌触りの優しいホールガーメントが生み出される。

シマセイキの原点である「全自動手袋編機」の開発から50年。常に新しい技術の開発を目指してきた企業は、これからも和歌山のリーディングカンパニーである。



島精機製作所の全商品は和歌山市坂田の本社工場で作られる。新設された組み立てラインでは全世界へ出荷されるコンピュータ編機が整然と並ぶ。

株式会社島精機製作所
住所/ 和歌山市坂田85 電話/ 073-471-0511

受け継がれる紀州魂。



瞳の奥で輝くのは職人氣質のチャレンジスピリッツ。

和田メリヤス株式会社/和田安史
住所/ 和歌山市馬場165-1 電話/ 073-479-0064

「吊り編み機」とは、天井から吊り下げた構造の丸編み機のこと。編機の原型とも言われる。しかし現在稼働しているのは世界でもわずか、そのほとんどが和田メリヤスにある。生産性の高い「シンカー編み機」が開発されると「吊り編み機」は時代遅れになるが、和田社長は「吊り編み機」は縦横どちらにも伸びるので身体になじみ、着心地がいいと確信し、不要になつた「吊り編み機」を日本中から買い集めた。そして現在では「まるで空気を一緒に編み込んだように柔らかい生地」と評価され、高品質な製品を求める多くのアパレルメーカーと直接取引を行っている。

しかし全てが順風満帆だった訳ではない。結婚した当初は食べるのにも困るような状態だったが、「私が働くからあなたはもっと勉強をして」と逆に奥さんにハッパを掛けられたという。そこでコンピュータープログラムを学び、古い編機を自作のコンピューターで制御し、さらに天竺編みだけでなく、ポーターやパイル地など多様な注文に対応できるように改造した。

「勉強は夜が明けるまでやつたよ。経済もやつたけど人相学もしたんよ。得意先で若い女の子と雑談するいきつかけになつたんよ」と語る職人は、まるでいたずらっ子のような様子だ。



和田社長は機械の前を通るだけで、編機の不調を音や振動で聞き取れるという。一人前の「吊り編み職人」になるには20年かかる。現在後継者は2人。職人魂は確実に受け継がれている。